

【風水害】

- ひび割れ、がたつきなど、窓や雨戸の点検
- トタンのめくれなど、屋根や外壁の点検
- 飛ばされやすいものは、外に出したままにせず屋内へ
- 停電に備え、懐中電灯やラジオなどの準備
- 災害時の連絡方法や避難場所の確認

避難が必要なとき

地震や風水害などによる避難の場合

- テレビ・ラジオなどによる情報の確認
- 避難情報が出たらすぐに安全な場所に避難



避難は近所で声を掛け合って

- 避難は徒歩で（渋滞を避けるため）
- 津波による避難の場合

- 時間がないときは、少しでも高い所（2階以上の建物）へ
- 海辺、川べりから直ちに離れ近づかない
- 正しい情報の入手方法の確保
- 注意報および警報が解除になるまでは、家に戻らない

土砂災害警戒情報

今年も、全国各地で集中豪雨による土砂災害が発生し、住宅や道路などに大きな被害をもたらしました。このような大雨による土砂災害発生危険度が高まったときに、市町村長が避難勧告や指示を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、県と銚子地方気象台が共同で発表する防災情報が「土砂災害警戒情報」です。

「土砂災害警戒情報」は市町村単位で発表され、報道機関などを通じて住民の皆さんに伝えられます。また市が避難勧告などを発令した際は、防災行政無線や広報車などで伝えます。土砂災害警戒情報などが発表されていなくても、斜面の状況には常に注意を払い、普段と異なる

状況に気付いた場合には、安全な場所に避難し、市役所に連絡をしてください。

土砂災害警戒区域の指定

県では、土砂災害の危険度が高い場所を「土砂災害警戒区域」または「特別警戒区域」に指定しています。本市では48か所が指定されており、県ホームページ(<http://www.pref.chiba.lg.jp/kakan/sabou/keikai/asahi.html>)でも見る事ができます。

なお区域指定されている箇所については、市で旭市土砂災害危険箇所位置図(土砂災害ハザードマップ)を作製し、対象地区の世帯に配布しています。

土砂災害ハザードマップは、市のホームページでも確認できます。

こんな場合はすぐ避難

次のような現象を察知した場合は、土砂災害が直後に起こる可能性があります。すぐに安全な場所へ避難するとともに、市役所へ通報してください。

- 山鳴りがする
- 斜面から水が噴き出す
- 地面にひび割れができる
- 井戸の水が濁る
- 小石がパラパラ落ちてくる

電池交換を忘れずに

防災行政無線の戸別受信機

各世帯に配布している戸別受信機は、停電対応用に単1電池をセットしてあります。乾電池の寿命は約1年です。戸別受信機からの合図(放送終了後の音声による案内や、ボリュームの左にある電源ランプの赤と緑色の点滅)があった場合は、アルカリの単1電池に交換し、右側面にある電源スイッチを一度切ってから、再度スイッチを入れて使用してください。電池を入れたままにしておくと、液漏れなどを起こし、故障の原因となります。

故障かな？と思ったら

受信状況が悪く聞こえにくい場合があります。アンテナを最大限に伸ばしたり、設置場所を変更したりして、受信状況を確認してください(現在午前7時と正午、午後4時30分に定時放送を実施)。それでも聞こえない場合は、問い合わせてください。



ここが点滅したら電池交換のサイン

災害用伝言ダイヤル「171」

災害時には、電話がつながりにくくなります。そうした場合には、NTTの「災害用伝言ダイヤル」が利用できます。

問い合わせ先

総務課地域安全班

☎ 62・5311

※土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間に20mm以上、または降り始めから100mm以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。



9月1日は「防災の日」

備えあれば憂いなし 地域みんなで防災再点検

大正12年9月1日に起きた関東大震災の教訓を生かし、災害に対する認識を新たにする日として、毎年9月1日を「防災の日」とし、8月30日から9月5日までを「防災週間」と定めています。

3月11日、東北地方を中心に大きな爪痕を残した東日本大震災は、本市にも大きな被害をもたらし、いまだ大勢の人が、将来に不安を抱えての生活を余儀なくされています。また全国各地では、台風や集中豪雨などの自然災害が発生し、予想を超える大きな被害をもたらしています。「防災の日」を機会に、あらためて身の回りの防災対策を見つめ直しましょう。

日ごろからの心構え

自然災害の発生を予測することは困難ですが、いざというときに落ち着いて的確な行動が取れるよう、日ごろから防災に関する意識を高め、万全の心構えと準備をしておくことが大切です。家庭や学校、職場などで、防災についての話し合いや非常用品などの再点検をしましょう。

地域の力で被害を最小限に

突然の災害に見舞われたとき、大きな被害を受けやすいのは、高齢者や子ども、障害者、傷病者、外国人など何らかの手助けが必要な人です。日ごろから地域でコミュニケーションを取り、いざというときには、協力し合いながら支援しましょう。

災害に対する備え

【地震・津波】

- 家具の転倒、落下防止、出入り口の確保
- ブロック塀、門柱の補強
- 非常時持ち出し品、備蓄品の確認
- 災害時の連絡方法や避難場所の確認